

その他報告事項

目 次

1. 養蜂巣箱設置について 2
2. 尼崎運河の再生に係る新たな取組みについて(案) 3
3. 尼崎 21 世紀の森構想エリア内のSDGs 顕彰制度について(案) 4

1. 養蜂巣箱設置について

(1) 経緯

令和2年8月より、兵庫県阪神南県民センター、尼崎市、兵協・尼協・阪神共同体、尼崎鉄工団地協同組合は、「尼崎21世紀の森・ミツバチプロジェクト実行委員会」を設置し、尼崎の森中央緑地第3工区に巣箱を設置し、養蜂の試行を行っているところです。

今年度第3工区内で整備工事を開始するため、現在の巣箱を廃止し、尼崎の森中央緑地はじまりの森に新たに設置することとします。

(2) 設置先

① 設置時期

令和4年12月（予定）

② 設置場所



2 尼崎運河の再生に係る新たな取組みについて(案)

1. 目的・趣旨

○尼崎ベイエリアの活性化

・大阪万博開催を踏まえ、大阪湾ベイエリア活性化の推進が検討されるなか、尼崎ベイエリアの活性化のスタートアップ事業として実施

○「尼崎運河再生プロジェクト」の再始動

・平成20年6月に国土交通省より認定された「21世紀の尼崎運河再生プロジェクト」により尼崎運河の水辺空間の整備が進んだが、現在は休止状態。あらためて、現在の社会情勢等にあった内容に見直し、再始動を図る

○市民らとの協働により「小さく生んで大きく育てる」

・尼崎市市民提案制度に提案のあった『「自ら変わろう。水から川ろう」Active On The Yomo River』をもとに、提案者、県、市ほか尼崎運河の再生に携わる方々とともに長期的な視点で取り組む。「まずできることから」を念頭に「小さく生んで大きく育てる」プロジェクトとしてスタート

(参考)「自ら変わろう。水から川ろう」Active On The Yomo River

○提案者

・NPO尼崎21の森(代表理事:廣川雅英、理事:岸本幸三)
※森構想への参画、運河でのイベント、SUPでも運河のごみ拾いなど様々な取組みを実施

○目的

・蓬川をはじめとする「尼崎の水辺資源」の価値向上等

○内容

・「川へのエントランス」として数か所の棧橋等を設置し、SUPの乗り降り、運河クルーズ、環境学習等に活用
・運河周辺のライトアップによる観光資源化、防犯対策
・蓬川公園でのアートイベント、北堀チャンネルベースでの環境学習ワークショップ開催等の運河に関心を持たせる仕掛けづくり

(参考)21世紀の尼崎運河再生プロジェクト

○尼崎南部臨海地域の貴重な財産である運河や河川を有効に生かし、運河を核とした魅力ある地域づくりをめざす。

○各種関連施設の整備

・水質浄化施設、チャンネルベースやボードウォークなど親水施設等を整備
・2018年には全国運河サミットin尼崎を開催

○提案をもとに、尼崎運河に携わる方々(※)意見も踏まえながら、取組みをとりまとめ

※尼崎運河○○クラブ(水質浄化施設で活動する任意団体)、NPO尼崎21世紀の森、徳島大学(水質浄化に係る研究)、周辺企業等

2. 主要プロジェクト概要

尼崎運河位置



(2) 水質浄化施設・チャンネルベースの機能強化、環境学習の推進

・新たな魚礁。水中観察窓の設置等による研究機能の強化
・係留機能の強化、バリアフリー化等による交流機能の強化
・水質浄化施設のひび割れ補修、追支柱の設置等による耐久性の強化
・運河での環境学習の成果をアピールする機会拡充(例:環境大臣賞受賞、G20大阪での発表)



(1) 魅力ある水辺空間の創出

・蓬川公園沿いにSUP(スタンドアップパドルボード)用棧橋、カフェスペースの設置
・周辺企業等による水辺空間ライトアップの協力依頼
・運河クルーズの本格実施
・運河を活用したアートイベントの開催
・尼崎の森中緑地でのバーベキューサイト整備



(3) 既存施設の新たな利活用やPR

・尼崎のびのび公園の新たな利活用(デイキャンプ、ドッグラン等)
・尼ロックのPR(防災展示室)
・民間活力の導入(新たな指定管理、ネーミングライツ等)



<実施にあたっての課題>

・予算の確保、実施主体の調整。実施スケジュールの作成(単年度だけではなく継続的な取組み)

3. 尼崎 21 世紀の森構想エリア内での SDGs 顕彰制度について(案)

(1) 目的

尼崎 21 世紀の森構想エリア内での SDGs 推進に取り組む企業・団体を顕彰、認定することにより、その活動の継続、拡充を促し、森づくりへの機運を高める。

(2) 対象

①国道 43 号以南尼崎地域において、SDGs に関する取組みを行う企業・団体

※企業・団体の所在は問わない。

②SDGs の目標は問わない。但し、1 年以上継続、今後も実施すること

(3) 内容

①「緑も水辺も育む賞」と同時実施

構想エリア内で美化・緑化を行う企業・団体を顕彰する「緑も水辺も育む賞」と同時に募集、実施する。

②方法

- ・自薦により、活動内容を阪神南県民センターへ報告（育む賞と同じ）
- ・内容に特段の問題がない場合は採用とする
- ・採用の場合が、表彰、盾の贈呈のほか、SDGs ガイドブックに取組みを掲載する。